

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 7月26日 更新

事務事業名		防犯灯整備事業						☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり						所属部	総務部	課長名	建岡 純雄
	施策	2	防犯対策の推進						所属課	総務課	担当者名	村上浩昭
	基本事業	4	防犯に関する環境の整備						所属班	交通防災班	(内線)	1223
予算科目		会計一般	款2	項1	目4	事業連番10025	法令根拠	防犯灯等整備対策要綱(閣議決定)			成果優先度評価結果	①
											コスト削減優先度評価結果	⑦
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始						事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 48 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	施設関係や幹線道路の通学路(区で設置するもの以外)などで未整備路線への防犯灯新設や市が設置している防犯灯の修繕、電気料の支払いを行うものである。S48年頃、社会情勢、経済発展に伴い、防犯対策、交通事故防止の視点により取り組み始めた。平成18年2月27日の合併後も引き続き継続して実施。近年は、犯罪や不審者事案の発生が増加傾向にある。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	① 地域(区、学校)からの要望、地域と協議、設置の有無の決定、設計書作成、契約事務、工事立合い 検査、電気料の申請、支払い② 市民・通行者からの連絡の受理、現地確認、修繕の発注、確認検査、支払い
【主な予算費目】	需用費(光熱水費、修繕費)
【意見や要望】	・保護者、区長、学校より暗がり、犯罪の危険性があることから早急な設置要望がある・設置場所次第では、近隣者より明るくて眠れない。また、農作物が育たないとの苦情がある・市民アンケートの自由記載欄には、防犯灯に関する要望が多い。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
・市内の通学路を中心に新設防犯灯94基を設置した。 ・既設防犯灯も修繕。 ・市管理防犯灯の電気料の支払い。		・市管理防犯灯の電気料を支払い。 ・市管理防犯灯不具合分の修繕。 ・市道等に防犯灯を設置する。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 年度工事回数	回	防犯灯10基分	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)	
市民		→ ア 人口 人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)	
夜間においても安心して通行できるようになる。		→ ア 新設防犯灯の設置件数(市) 件	
		→ イ 既設防犯灯の修繕件数(市) 件	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
「夜間においても安心して通行できるようになる」には、市設置分の新設防犯灯、不具合の防犯灯をどれだけ修繕できたか、で判断する。23年度の目標値は新設10件、修繕50件とした。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回	回	1	1	1	0	1	1	1	
② 対象指標	ア 人	人	54,407	54,856	55,732	55,828	56,281	56,829	57,379	
③ 成果指標	ア 件	件	9	7	10	94	10	10	10	
	イ 件	件	72	59	50	52	50	50	50	
投 入 費 量	事業費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	6,370	6,874	6,068	14,160	7,511	7,350	
	人件費	(A) 事業費計	千円	6,370	6,874	6,068	14,160	7,511	7,350	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	5	5	5	3	5	5	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	180	220	220	350	220	220	0
	(B) 人件費計		千円	720	875	875	1,442	906	906	
			千円	7,090	7,749	6,943	15,602	8,417	8,256	

事務事業名	防犯灯整備事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	---------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 23年度では通学路防犯灯の設置等に備え設置費用10基を計上し、目標達成に努める。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 市民からの防犯灯設置の要望は多く、要望箇所の調査を十分に行い、計画的な設置に努めていくことで、成果の向上余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市が行う防犯灯設置に関する事業は、本事業のみである。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 22年度当初は、市で管理する分の防犯灯の電気料と修繕費の維持管理分のみである。さらに、防犯灯の整備が進んでいけば、電気料は増えていくことになる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 電気料の支払い、修繕や工事発注事務に要する人件費のみである。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 区に対応しない通学路等の主要道路について、市で整備するものであり、公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 各区内の防犯灯の整備、維持管理については各区で行い、それ以外の不特定多数の人が利用する幹線道路などについて市で整備、維持管理を行っている。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・通学路に設置する防犯灯ということで、要望箇所を調査し94基の防犯灯を設置した。既設防犯灯の修繕も52基行った。危険性の高い箇所から計画的に防犯灯を設置し改善を図ることができた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

今後は市民からの設置要望に適宜応えて行く。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	○		
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策